

メタ安全保障

オリエンテーション —— 参加のための実務ガイド

主催：Singulab × AUTOMATA

1. はじめに

本書は、第2回 AI エージェント社会シミュレーション・ハッカソン「メタ安全保障」の参加に必要な事項をまとめた実務ガイドです。課題の設定、提出物、評価の観点、スケジュール、倫理上の留意点までを一通り記載しています。

本ハッカソンの思想的な背景と発想集は、別紙『メタ安全保障 —— 概念解説とハッカソン課題の発想集』にまとめてあります。あわせてご参照ください。

解説動画: <https://youtu.be/-PYxM5M1-24>

2. 課題

AI エージェントで社会シミュレーションを行う。

必須条件はこれだけです。難しく考える必要はありません。

メタ安全保障の概念は、軍事・経済・エネルギー・食料・サイバー・環境といった従来の領域に限定されません。文化・情報・宇宙・AI など、一見安全保障と関係しない領域も含めて構いません。

一見関連性のない複数の領域を組み合わせ、そのあいだに生じる相互作用や連鎖を、複数の AI エージェントで観測してください。「どの介入点を変更すれば連鎖が変わるか」まで示せると、より深い分析になります。

なお、使用するモデル・フレームワーク・言語は自由です。単なる予測モデルではなく、LLM マルチエージェントによる相互作用から連鎖が創発する形を推奨します。

3. 計算資源（GPU）の利用

スポンサー提供により、大規模 GPU サーバーを用意しています。ローカル PC では難しい規模のシミュレーションに挑戦したい方向けの選択肢です。ローカル LLM（Ollama 等）や商用 API（GPT/Claude 等）による実行も可能で、商用 API は各自負担となります。

- **スペック:** 168GB VRAM（RTX 5000 × 7 台）

- **事前選考:** 事前選考を通過する必要があります
- **提供:** リモートで接続可能です。事前選考通過者にセットアップのマニュアルを送付します
- **任意利用:** GPU サーバーが不要な作品は、無理に使う必要はありません

4. 参加資格・運営方針

参加資格

- 個人参加・チーム参加のどちらも可
- 領域の専門知識は不問。技術・研究の背景がなくても、越境的な発想を歓迎する
- シンギュラボ研究員に限らず、一般（研究員以外）の個人・チームも参加できる
- GPU クラスタ枠（7 チーム）応募者のみ、事前選考を通過する必要あり

運営方針

- 運営からの連絡は Web サイトで行う
- 参加者との交流や進捗共有、運営への質問は AUTOMATA Discord サーバで受け付ける
 - <https://discord.com/invite/krcqH6NNVj>

5. 提出物と形式

5-1. 事前選考: GPU 利用申請（対象チームのみ）

大規模計算資源（GPU）の必要性和実行可能性を審査します。以下の内容を申請してください。

- 課題設定
- 大規模計算資源の利用計画
- （任意）**MVP - 最小限の動作品** ※ある場合のみ。GitHub リポジトリ URL

事前選考の審査基準（参考）

- 本規模の計算資源によって実現する要素（試行規模・学習有無・モデル内部アクセス・LLM 以外の計算など）
- 使用モデル・フレームワーク・想定使用時間
- リソース投入と成果物の因果関係
- 実行計画の現実性

申請フォーム: <https://forms.gle/rsTziyx1Z97RHe469>

※ 事前選考に応募して参加者番号を受け取った方は、一般の参加表明を別途行う必要はありません。参加にかかる事前提出は 1 回で完結します。

5-2. 参加表明（一般）

GPU 利用事前選考に応募しない方は、以下のフォームから参加表明をお願いします。提出後、参加者番号がメールで送られます。

参加表明フォーム: <https://forms.gle/9suPXBQ8WYjdWAFy8>

5-3. 本選：最終提出物

「挙動の確認」と「他者による再現性」を最重視します。以下の一式を提出してください。

- **GitHub リポジトリ**（「public リポジトリ」として公開）
 - ソースコード
 - README.md（下記の「参考デモ」に準拠し、環境構築から実行方法までを網羅すること）
 - 実行スクリプト（再現手順が分かるもの）
 - 実行結果の生ログファイル（データ量が多い場合は主要部分のみでも可）
 - 解析用ファイル（ノートブック・スクリプト等）
 - 解析後のデータ（生成された CSV / JSON など）
- **説明資料**
 - ビジュアル（図・画像）を含むレポート（10 ページ以内）、またはスライド（5～10 枚程度）
- **デモ動画**
 - 3 分程度。審査員が仕様と挙動を明確に確認できるもの
 - ドライブ形式で提出

GitHub 作成参考: <https://github.com/ryukih/SD-Hackathon-2026DEMO>

5-4. 提出規約

- **ファイル命名規則（厳守）**
 - 半角英数字のみを使用（日本語不可）
 - 構成：参加者番号_氏名_タイトル_種別（例：001_TaroYamada_ProjectTitle_Report.pdf）
 - 参加者番号は、参加表明の際に運営から送られます
- **提出方法・窓口**
 - Web サイトにて告知

6. 評価

本ハッカソンは点数だけを競う設計ではありません。単線の優勝・準優勝ではなく、多様な冠が並び立つ形とします。評価は計算規模の大小ではなく、着想・設計・連鎖の観測の質で行い、GPU サーバー利用の有無は有利にも不利にもなりません。

評価は AI による審査と、特別審査員による審査を併用します。

なお、今回の AI 審査は複数領域の創発性（掛け算で生まれる何か）を対象としています。第 1 回ハッカソン作品を継続・発展させて提出することも可能ですが、その場合は AI 審査の対象外となり、特別審査員による審査のみとなります。

詳細な評価軸・評価基準（創発量 Q の定義、非分離性テスト、頑健性の確認など）は、別紙『評価軸ガイド』にまとめています。あわせてご参照ください。

6-1. 表彰の先にあるもの

作品の方向性に応じて、以下の伴走支援を用意します。

- **プロダクト化**—— 企業・団体との連携
- **論文化**—— 研究者ネットワークを通じた支援
- **起業**—— 投資家・メンターの紹介

シンギュラボが作品と出し手（企業・研究機関・投資家）を仲介します。

7. スケジュール

フェーズ	期間	備考
GPU 利用事前選考	- 8/9(日)	
GPU 利用チーム発表	8/14(金)	
ハッカソン参加登録	- 8/23(日) 23:59	
本選（開発）	8/15(土) - 8/30(日)	16 日間
提出締め切り	8/30(日) 23:59	
結果発表	後日掲載	

8. 倫理・禁止事項

- 本ハッカソンは分析・研究・シミュレーションを目的とする。特定の情報操作や攻撃の実行を目的とする作品は対象外とする
- 実在の個人を標的化する内容、機微情報・非公開情報の不適切な利用は禁止する
- 安全保障というテーマの性質上、表現は中立・分析的に保つ。差別・扇動を助長する内容は認めない

- ・ 生成物・データの権利、および第三者の権利に配慮すること

9. 課題例

テーマ	つなぐ領域／観測するもの
物語が国家をつくる	大衆文化 × 軍事・産業力。物語に晒された世代の価値観・思想が、50年後の産業・軍事能力をどう形づくるか
押し活は安全保障か	ファンダムの熱量 × 政治・経済の動員。集合的な動員力が国境を越えて消費・世論・行動をどう動かすか。閾値と伝播を見る
文化輸出という静かな侵略	ソフトパワー × 同盟・陣営の選択。陣営がコンテンツを輸出し合い、中立集団の価値観が同盟の選択をどう傾けるか
認知戦の三段カスケード	情報操作 × 選挙 × 金融。偽情報が投票行動と政策期待を経て、最終的に市場を動かす三段階の連鎖
真実の生態系	信頼ネットワーク × 社会のレジリエンス。デマの拡散と、事実・相互信頼の回復速度の競合を観測
AI 計算資源と海峡の緊張	計算資源 × 電力 × 地政学的急所。compute 需要が電力争奪と要衝確保を招き、政情不安へ至る連鎖
食の脱国家化	生産技術 × 食料地政学。培養肉・垂直農業の普及により、穀物輸出国のレバレッジがどう減衰するか
宇宙データセンター	軌道上の計算・エネルギー × 地上地政学。軌道スロット争奪が、安全保障の主戦場を地表から引き離す
宇宙規範の創発	無法地帯 × 制度の自己生成。中央の立法者がいない空間で、相互作用から自生的な規範が生まれるか
AI 外交主体	自律 AI × 抑止・外交。人間と AI が混在する環境で、AI 同士の加速的なエスカレーションや緊張緩和